

武蔵野市らしさを磨きながら市民主役の市政を前進させる

10月に行われた市長選挙で再選した邑上守正市長に、3期目を迎え、これからの市政にかける想いを聞きました。



武蔵野市長
むらかみもりまさ
邑上守正

Q これまでの2期8年の市政を振り返っての成果を聞かせてください

まず、中学校給食が実施できたことは成果だと思います。委員会を設けて議論し、食育の観点を重視しました。市内の農家に食材の提供をお願いし、地産地消にも取り組んでいます。最近では、農家と子どもたちの関係が深まるとともに、農家にとつても給食用の出荷が柱の一つとなり、良い相乗効果が生まれています。

次は、武蔵野プレイスです。専門家や市民の声を聞きながら、当初の設計を再検討して整備するともに、運営の仕組みについても検討しました。そのかきもあつて、年間150万人の方々に利用いただける施設となりました。

地域の方々の協力と理解をいただき、新武蔵野クリンセンターの建設事業に着手できたことも大きな前進です。現在の施設も市民参加で計画し、運営を30年間続けてきた成果といえるでしょう。

また、戦時中、武蔵野に初めて空襲があつた11月24日を「武蔵野市平和の日」に制定しました。

議会でも全会一致で可決いただいたのはうれしかったですね。

Q 3期目に特に取り組みたい施策を教えてください

保育所の待機児童対策を重要課題と考えています。市では保育所の定員を増やしていますが、追いついていないのが現状です。2年間での待機児童解消を目指し、保育所の誘致など具体策に乗り出しています。子育て支援もさらに充実し、子育てしやすい環境を整えていきます。

本市では東京都の中でも早い時期に上・下水道や公共施設の整備を進めましたが、一方で現在、施設の老朽化が進んでいます。市が着実に積み上げてきた基金も有効利用しながら、公共施設の計画的なリニューアルを進めていきたいですね。

Q 3駅圏のまちづくりの展望をお聞かせください

武蔵野市、とりわけ吉祥寺は「訪れたいまち」「住みたいまち」

として評価されています。これからの期待に応え続けるまちでなければなりません。地域の持つ資源、つまり武蔵野市らしさ、吉祥寺らしさを磨くことが重要ではないでしょうか。

市の役割はまちの基盤をつくることです。その基盤の上で、地域の商業が自由闊達に活動をしていけば、おのずと活気が生まれます。吉祥寺駅では現在大きな改良工事を進めています。南口エリアについても全体の再整備を進めていきます。

三鷹駅北口エリアではさらに有効活用が期待できる低・未利用の市有地があります。玉川上水の緑、象徴的な景観を持つ駅前広場、そして点在する市有地をつなげながら、一体的な空間を創出していきたいですね。

武蔵境駅周辺では今まさにまちづくりが進められています。南口で実現した美しい景観の流れを北口にもつなげ、緑豊かで活気あるまちづくりをしていきます。

Q 広域的な行政の在り方をどう考えていますか？

市として自立しながらも、他

の自治体との連携は不可欠です。隣接する自治体、多摩地域の市町村、そして友好都市関係にある全国の9市町村と、日頃から関係を深めるとともに、災害時に助け合える体制を整えています。

また、中央線沿線のほかのまちも活気があるようです。沿線に魅力的なまちが連続し、お互いに輝き合っていきたいですね。

2020年の東京オリンピックが決まりました。東京都で行う大イベントですから、多摩地域の各市町村でも役割を担えるように都に要望をしています。

私は市民一人ひとりを大切にする政治に努めてきました。行政の枠組みだけで考えるのではなく、市民一人ひとりの視点に立つたサービスを心掛けていかなければなりません。

今後も武蔵野市の伝統である市民参加の取り組みを進めながら、「市民が主役の市政」を前進させていきたいと考えています。

(聞き手…山口剛)